

平成29年度

町長

施政方針

挑戦のまち神石高原町創造予算



広島県神石高原町

平成29年度予算について

平成29年度神石高原町一般会計及び特別会計並びに各事業会計の当初予算案を提出するにあたり、その概要と町政運営に対する所信を申し述べ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

本予算案は、私の考える「誰もが挑戦できるまち神石高原町の創造」に向けたスタート予算と位置づけております。

本町は、合併後12年間、牧野町政の下で「信頼と合意」「創造と改革」を基本理念にかかげ、限られた財源を「選択と集中」により効果的に配分し、健全財政を堅持しつつ、町民の皆様との協働による特色あるまちづくりを進めてきました。

昨年、12月に町政を引き継いだ私も、その基本的考え方を踏襲し、健全財政の維持に向け行財政運営を進めてまいります。

また、町民の皆様のご協力により積み立ててきた基金については、将来への投資として必要な支出に対し、積極的に活用することを検討していきたいと考えています。

はじめに、現在の本町の財政状況についてご説明いたします。

本町は、行政改革大綱や集中改革プラン、定員適正化計画、公債費負担適正化計画等の着実な実行により、行財政改革の面で、大きな成果を上げています。特に債務については、財政健全化の指標である実質公債費比率が、平成27年度決算において8.2%となり、最も数値の高かった平成20年度の21.9%から大幅な改善を図ることが出来ました。

また、合併特例債、過疎対策事業債を活用した各種基金造成により、

普通会計においては、100億を超える基金を積立てることができました。これは、合併以来進めてきた財政健全化への取組の成果であり、住民はもとより、議員各位や職員のご理解とご協力の賜物であると改めて感謝を申し上げます。

今後の財政状況についてですが、歳入の半分を占める普通交付税の合併算定替えの特例加算が平成26年度で終了し、段階的縮減が始まりました。本年度の交付額は、昨年度よりさらに1億円の減少を見込んでおり、平成32年度までの間、縮減される計画となっており、今後、より一層厳しい財政運営が予想されます。

本年度の予算編成にあたっては、「歳入に見合う歳出」を基本に、標準財政規模に近づけるよう引き続き行財政改革を行います。また、経常経費の見直しはもとより、遊休財産の処分や債務残高の縮小、基金の運用等による財源の確保など、コスト削減を進めるとともに、稼ぐ行政への転換に取り組みます。

続きまして本年度の各種最重要施策についてご説明致します。

本年度の当初予算は、私が、昨年12月議会で所信表明致しました「誰もが挑戦できるまち神石高原町の創造」を基本理念とし、「8つの挑戦」を柱とした施策を盛り込む予算編成と致しました。

さらに、平成27年度から進める「挑戦のまち神石高原町人口ビジョン」、
「挑戦のまち神石高原町まち・ひと・しごと創生総合戦略（チャレンジプラン2019）」に掲げる取組と融合を図りながら、各種事業の確実な実行に向けスピード感を持って取り組む決意であります。

8つの挑戦を柱とした重要施策について

① 超高付加価値農業の実現

- ・ 超高付加価値農業振興（プレミアムブランドの構築）

- ・産直市場の見直し

② チャレンジファンドの創設

- ・地域資源を活用した新規起業等育成支援

③ 協働のまちづくりの推進

- ・協働支援センター本格稼働

④ 世界を相手にできる人財づくり

- ・中・高生海外研修の充実
- ・3歳児から中学生まで一貫した英語教育の推進
- ・ビジネスコンテスト
- ・ふるさと回帰塾開設

⑤ 町民が尊敬しあえる環境づくり

- ・達人ネットワークの構築
- ・第5期障害者計画策定

⑥ 定住促進の強化

- ・第2定住団地の検討
- ・遊休財産の活用

⑦ 医療・福祉サービスの充実

- ・町立病院建設事業
- ・神石高原町保健医療体制整備
- ・子育て支援の充実（新規予防接種支援）

⑧ 行財政改革の推進

- ・定員適正化計画に基づく職員採用
- ・積極的な財産活用

以上①～⑧が本年度、誰もが挑戦できるまち神石高原町の創造に向けスタートする施策でございます。

それでは、本年度の一般会計について、概要をご説明致します。予算総額は97億7,000万円で、前年度に比べ額にして2億円、率にして2.1%増の積極型予算と致しました。

性質別歳出の対前年比を見ると、義務的経費372万円(0.1%)の増、投資的経費1億1,579万円(10.3%)の増、その他の経費8,050万円(1.6%)の増でございます。

義務的経費については、人件費6,307万円(4.2%)の減、扶助費1,214万円(2.2%)の減、公債費7,892万円(6.0%)の増と人件費が職員の退職に伴い減少する一方で、神石高原中学校の建設費の起債償還が始まったことによる公債費の増加が数字として表れています。

投資的経費については、普通建設事業費で、前年度より1億1,579万円(10.3%)増加しました。いずみ保育所の整備、新規就農者模擬経営圃場整備、トマト選果場屋根改修工事を行うためでございます。また、その他の経費については、経常経費の抑制に努める一方で、町立病院への補助金や生活交通確保のためのタクシー運賃助成などの補助費等を中心に増額予算となっております。

物件費については、国の補正予算に伴い、地籍調査事業の前倒し(繰越)などにより、前年度より4,461万円(2.5%)減少致しました。

維持修繕費については、仙養ヶ原ふれあいの里の施設修繕や体育施設等の修繕など、公共施設の老朽化に伴う修繕により、前年度より1,518万円(16.6%)増加しています。

補助費等については、協働支援センター運営費補助をはじめ、路線バスやふれあいバスの運行見直しによる生活交通機関確保事業の実施に伴い、前年度より1億1,314万円(7.1%)増加しています。

積立金については、過疎ソフト債を活用した「医療従事者確保」基金の積立終了や「保健・医療・福祉」基金の積立額の減額により、前年度

より 4,183 万円（8.4%）減少しています。

繰出金については、簡易水道事業において行っている油木市場地区水道管布設替工事や安田上地区簡易水道施設整備の早期完了に向け、前年度より 3,832 万円（3.7%）増加しています。

それでは、新町建設目標の 5 項目に沿った施策についてご説明いたします。

1. 「高原の特徴を生かした快適で魅力に満ちたまちづくり」として取り組む施策

協働のまちづくりの推進として、地域・住民が主体的に取り組む事業を積極的に支援します。

現在、新たな協働の場として、各地区協働支援センターでは、地域の課題の解決と地域特性を活かした活動に向けた議論を円卓会議やワークショップを通じ行っておられます。

各地区独自の「まちづくり計画」が策定され、新年度より、本格的な取組が始まり、地域・住民・各種団体の主体的且つ積極的な活動を支援します。

また、本年度より、公民館を協働支援センターへ移行させ、地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点としての機能を高めます。

定住対策の強化として、第 2 定住団地の検討や遊休財産の活用に取り組みます。

定住促進団地「星の里いせき」は、86 区画中 67 区画を販売する好調な販売により、当初の目標を達成したため、本年 3 月で販売を終了します。

新年度では、町内外からニーズの高い空き家バンク制度と併せた更なる定住者の確保に取り組むとともに、新たな定住団地の整備に向け候補地の調査、基本設計などの検討を行います。

本町は合併以来、行財政改革に取り組み、現在、財政指標等も良好な状況となり、100億を超える基金を保有するまでになりました。今後、経費節減や更なる行財政改革に努めるとともに、積極的な財産の活用による財源の確保に取り組めます。

また、定員適正化計画に基づく職員採用を進め、年齢層に偏りのない持続可能な職員体制の構築に取り組めます。

このほか、安心安全なまちづくりとしましては、近年多発する自然災害による避難所開設等の備えとして備蓄用品の整備を行うとともに、新たに本庁庁舎内に設置する災害対策本部の機能の充実を図ります。

消防団においては、油木方面隊及び豊松方面隊の積載車の更新と耐震性防火水槽の設置を行います。

また、地元消防団活動に対する支援として、老朽化したヘルメットの更新等、消防団活動に対する安全対策に務めるとともに、引き続き、自主防災組織を中心とした災害に強いまちづくりの推進に取り組めます。

簡易水道事業については、本年度も引き続き油木市場地区水道管布設替工事、安田上地区簡易水道施設整備工事を行い、早期完了をめざします。

少子高齢化に歯止めをかける取組としては、牧野前町長が取り組んで

きた「出会いから、結婚、出産、子育て、教育」までの包括的で切れ目のない支援を継承し、定住促進事業を行います。

特に、出会いから結婚までの支援として、若い男女の出会いの機会の創出に向け、ブライダルセンターの体制強化に取り組みます。

2. 「保健・医療・福祉が充実した安心して暮らせるまちづくり」として取り組む施策

医療・福祉サービスの充実として、町立病院の建設、神石高原町保健医療体制の整備、子育て支援対策の充実に取り組みます。

とりわけ、老朽化した町立病院の建替えにつきましては、「町立病院建設プロジェクト」を2月に立ち上げ、病院建設について議論しているところです。住民が安心して医療サービスを受けられる環境整備に向けた取組を早期に進めます。

併せて、医療から在宅、介護、老人ホーム、サービス付高齢者住宅など、一貫した医療・福祉サービスの提供についても、医療従事者や福祉施設運営者、専門家と提携し、検討を進めます。また、安心して子育てを行う環境の整備として、小児科医療体制の構築、病児預かり制度などについて検討を進めます。

医療等の助成については、子ども医療や不妊治療費の助成を継続するとともに、新たに乳幼児のロタウイルスワクチン接種補助事業を行い、少子化対策や子育て支援を強化します。併せて子どもや高齢者に対するインフルエンザ予防接種や妊婦検診の無償化も引き続き行い、町民の健康維持を支援します。

また、若者世代に対する子育て支援については、1歳の誕生日や小・中学校入学時に祝い金を支給するほか、第2子以降の保護者を対象に保育所や幼稚園、託児所への預け入れに係る費用を助成（実質無償化）し、安心して子育てができる環境づくりを進め、定住者の確保と合計特殊出生率2.1をめざします。

高齢者等に対する支援については、認知症予防事業を継続し、認知症サポーター養成講座やカフェの開催など、介護福祉の関係機関が連携した生活支援を行い、きめ細かな保健福祉サービスの提供に努めます。この他、町内の住民や福祉施設で働く方を対象に、介護技術の取得に対する研修費を補助し、研修を受講しやすい環境を整え、介護人材不足の解消と介護や認知症に対する理解を広めます。

3. 「自然と歴史を生かした教育・文化のまちづくり」として取り組む施策

世界を相手にできる人材づくりとして、中・高生の海外研修の充実や、3歳児から中小生を対象とした英語教育を推進します。

ICT（情報通信技術）が発達した昨今では、本町のような中山間地域においても、都市や海外を相手に仕事をすることができます。幼少期から英会話にふれる機会を増やし、英語で日常的な会話ができる力をつけるため、保育所・幼稚園、小学校、中学校と一貫した英語教育の実現を目指し、21世紀に活躍する人材の育成に取り組みます。

油木高校が行っている、オーストラリアへの語学研修を拡大するとともに、中学生の海外交流体験支援を新たに行います。

また、3歳児からの英会話学習として保育所・幼稚園での英会話体験を実施するとともに、DVD教材の整備を行います。

小学校では、イングリッシュDAYキャンプとして1日英語体験学習を行います。

このほか、本年度の教育環境整備については、来見小学校の体育館改修工事として、壁面や照明等の改修を行うとともに、校舎内トイレの一部改修工事を行い、教育環境の整備に取り組みます。

また、現在、運行しているスクールバスのうち、老朽化した三和小中学校のスクールバスを更新し、通学時における児童生徒の安全確保に努めます。

併せて、昨年度より新規に行う子育て支援策、学校給食と保育料の実質無償化に継続して取り組み、子育て世代の負担を軽減し、食育の推進と充実した学校給食の提供に努めます。

教養の町読書推進事業については、引き続き、心豊かで活力ある教養のまちづくりを推進します。

中高一貫教育については、連携型入試により、地元中学からの入学生の増加が期待されるところです。引き続き県立油木高校と連携し、教師の相互派遣、英語スピーチコンテスト、学力向上対策などの積極的な教育連携に取り組みます。

油木高校に対する支援としましては、英語、漢字検定受験料の助成を継続するとともに、新たに数学検定、ニュース時事検定、家庭科技術検定などの検定料や受講料の助成を行います。

また、はやぶさ塾やサテライン、農業体験研修や養蜂、県立農業技術者大学校入学者への支援なども継続し、油木高校の教育の推進と魅力づくりに取り組みます。

社会体育の推進としましては、油木多目的グラウンド内に休憩所の整備を行います。また、来見、上の両グラウンドのトイレ棟の整備・改修を行い、町民の体力向上と健康づくりに向け、環境整備を進めます。

4. 「地域資源を生かした活力ある産業と交流のまちづくり」として取り組む施策

超高付加価値農業の実現として、超高付加価値農業の振興、産直市場の見直しを行います。

新たな取り組みとして、本町にある「神石牛」や「マル豊トマト」などをはじめとした高付加価値を持つ神石ブランドを、こんにゃく、ピオーネ、シャインマスカットなども含めた統一的なブランドに昇華させ、町の統一ブランド「JIN（神）Premium」を構築します。有利に販売するための付加価値を高め、農業を中心とした暮らしが可能になるような取組を進めます。

産直市場の見直しについては、さんわ182ステーションを本町の玄関口として更なる魅力づくりに向けた大胆なりニューアルを行い、利用者に配慮した店舗整備に努め、サービスの向上と売り上げ拡大に取り組めます。また、3つの産直市場の在り方等について早急に検討します。

チャレンジファンドの創設、ビジネスコンテスト・ふるさと回帰塾の開催など、地域資源を活用した新規起業等育成支援や人財育成に取り組めます。神石高原町で起業や規模拡大に積極的に挑戦する事業者を支援できる仕組みとして、新たに神石高原チャレンジファンドを創設します。とりわけ、上半期において運営母体の設立に向け、早期の設立と支援体制の確立に取り組めます。

ビジネスコンテスト事業は、起業や規模、雇用拡大につながるアイデアを募集し、優れたアイデアを提案した方を表彰するコンテストを開催します。

また、ふるさと回帰塾として、UIターン者の促進と、町内の人材育成を目的に、町内に宿泊しながら勉強会を開催します。

このほか、マル豊トマトのブランドを生かした儲かる農業の実現と生産規模の拡大に向けて、新たな入植者の確保が必要であり、新規就農者を指導する体制づくりが求められています。

引き続き、トマト新規就農者研修事業を行うとともに、本年度から、研修生が研修期間中により実践に近い経験を積むことができる施設の活用を始めます。また、模擬経営を行う施設を新たに整備し、さらなる新規就農者の育成を図ります。

油木高校を対象とした農業後継者の確保対策としては、本年度も引き続き、広島県立農業技術大学校へ進学した生徒を対象に、卒業後の町内への就農を支援し、定住対策につなげます。

農業生産団体等に対する支援については、本年度も、町内産飼料米の需要に対応しWCS用稲の生産拡大を図るとともに、町内の農業生産法人の育成を行うため、機械導入費を助成し地域営農体制の強化と農業生産団体の育成を図り、営農意欲の向上と基幹産業である農業の活性化及び雇用の創出に取り組みます。

有害鳥獣駆除対策としては、従来の取組に加え、特に深刻化するサル
の被害を防止するため、サル用首輪無線発信機を整備し、追払い業務の

強化を図ります。

また、野猪等の被害を防ぐため、新たに有害鳥獣捕獲班員の活動支援として猟銃購入費助成を設け、農作物被害の防止と生産者支援に取り組みます。

林業関係については、引き続き、林業再構築プロジェクトやひろしまの森づくり事業などを活用し、山林の保全と再生に努めます。特に、本年度は、次世代林業基盤づくりによる林内路網整備や人工林の間伐を行うとともに、木質バイオマス用として搬出された木材の量に応じて山林所有者へ補助金を出し、間伐材等の活用を促進させ、森林施業の推進につなげます。

商工業の振興では、雇用に係る町内企業の支援として、雇用促進奨励助成や新規学卒者雇用奨励助成事業を継続し、雇用の確保に取り組みます。また、店舗のリニューアル、空き家購入、及び貸借による開業支援についても継続し新規開業の機会を支援します。

町内の中小企業者支援としては、金融機関からの新規借入者に対する利子補給事業を継続し、地元企業の育成支援に取り組みます。

また、工場等設置奨励事業については、現在の制度を継続し、企業誘致に取り組みます。

観光では、観光協会が旅行業登録を行い、森林セラピーの促進や自然の魅力を生かしたツアーの開催等により観光客の増加に取り組むとともに、本町の恵まれた自然環境を町内外へ情報発信するため、他の市町共同によるテレビ広告放送を行うなど、本町の魅力を広くPRします。

P F I 事業として整備を進めた仙養ヶ原森林公園の観光事業に対する支援を引き続き行い、自然と命の尊さを体験する公園として、町内の他の観光資源との連携を図り観光客の誘致に取り組みます。

5. 「交通・情報通信基盤の整った一体感あふれるまちづくり」で取り組む施策

本町の情報通信サービスの基盤である「かがやきネット」については、本年度も、告知システム放送設備の更新を行い、引き続き安定したサービスの提供に努めます。

道路対策としては、継続路線の早期完了に取り組みます。

インフラ対策としては、道路法の改正に伴い、町で管理する全ての橋梁とトンネルの点検が義務化され、5年毎の点検が必要です。老朽化した橋梁の補修等、今後の対策を検討します。

道路維持対策については、引き続き、自治振興会を対象に認定町道等の草刈や支障木伐採、除雪作業に対する支援を行い、協働によるまちづくりへの意識を醸成します。

地域公共交通については、新年度より(株)中国バスによる、呉ヶ峠～東城線、神石支所前～牧～油木線、呉ヶ峠～古道・永谷～神石高原町立病院線の運行が廃止され、新たに町営バスの運行（神石支所前～牧～油木線）を始めます。

また、これまで、公共交通補完事業として運行してきた、ふれあい号の運行を全面的に見直し、新たな交通制度（プレミアムタクシー事業）として、タクシー運行による生活交通の充実確保に取り組みます。

続いてこれらの財源である歳入の概要について、ご説明いたします。

本町の主たる自主財源である町税については、景気の低迷感はあるものの、個人消費のわずかな回復傾向と、企業の設備投資の増加による固定資産税等の増加により、総額 9 億 7,176 万円と前年度より 3,493 万円 (3.7%) の増を見込んでいます。

地方譲与税や各種交付金は、基本的に県からの交付見込額を計上しています。

総務省の予算資料によると地方財政対策については、地方の安定的な財政運営に必要な地方の一般財源の総額を前年度の水準を下回らないよう同水準を確保するとしており、通常収支における一般財源の総額を前年度を 4.0 兆円上回る 62.8 兆円を確保しています。

各種交付金については、総体的に圧縮されるなか自動車取得税交付金については、前年度より 1,575 万円増加し、6,545 万円を見込んでいます。とりわけ、歳入の大半を占める地方交付税については、国の予算額 2.2% の減少を受け、前年度より 1 億円の減少を見込み 49 億 6,000 万円を計上しています。

普通交付税は、交付税制度の抜本的な改革が叫ばれるなか、地域経済活性化の取組に必要な新たな財政需要を反映させるため算定方法の見直しが行われました。

「福祉事務所設置町村に係る交付税措置」が特別交付税から普通交付税に移行され、地域交通手段の確保や地域コミュニティー維持などの地域振興費を算定にする「市町村の姿の変化に対応した交付税算定」が新たに追加されます。

この他、「人口減少特別対策事業費」、「地域元気創造事業費」は、前年度同額を、臨時費目である「地域経済・雇用対策費」については、算定額が減少し、本年度の予算は、前年度より 1 億円少ない 47 億円を予算計

上しています。

なお、特別交付税については、地方創生関連事業に要する経費の算定の増加を見込み、前年度ベースを維持し 2 億 6,000 万円を予算計上しています。

国の補助金については、社会資本整備町道高蓋上下線の道路改良工事の完了、小畠住宅建設工事の完了等に伴い、前年度より 6,495 万円少ない 4 億 4,098 万円を見込んでいます。

県からの補助金については、「未来の地域づくり応援交付金」、公共施設再生可能エネルギー等導入事業、林道五反畑線舗装工事、参議院議員選挙等の完了に伴い、全体では、前年度より、1 億 928 万円減少し、5 億 6,486 万円を予算化しています。

繰入金については、公共施設の修繕工事に公共施設総合管理基金から、保育料、学校給食無償化事業へ保健・医療・福祉事業基金一般財源分（福祉事業分）から、また、交付税減額に伴う財源として財政調整基金から繰り入れを行い、前年度より、2 億 0,872 万円多い 6 億 3,705 万円を予算化しています。

地方債については、過疎・辺地対策事業債を中心に、交付税算定上、最も有利となる事業に限定して充当し、本年度は、いずみ保育所建設工事、安田上地区簡易水道施設整備工事、豊松陽光の里選果場屋根修繕工事、トマト模擬経営研修圃場整備工事等を計画しており、前年対比 25.4%、2 億 2,780 万円増加し総額 11 億 2,580 万円の借り入れを計画しています。歳入見込みの結果、本年度の歳入財源内訳は、自主財源比率が 22.8%、依存財源比率が 77.2%となりました。

引き続き債務の解消、公債費の抑制に努めなければならないと考えています。

以上が一般会計当初予算案の概要であります。

その他の会計については、医療費・介護保険の所要見込み額、簡水、集排に係る維持管理経費等として、8特別会計42億4,950万円と病院事業会計4億351万円の合計額46億5,301万円を一般会計と合わせて総額144億2,301万円となりました。

冒頭申し上げましたが、平成29年度予算は、「誰もが挑戦できるまち 神石高原町の創造」をスローガンに、顕在化する様々な課題に向き合い、地域力を向上させる取組を全力で進め、新たなまちづくりの創造に挑戦するための予算であります。

とりわけ、誰もが挑戦できる環境づくり、仕組み作りが重要と考えています。小さな成功事例を少しずつ積み上げていく支援を行うべく予算編成を行いました。

特にチャレンジファンドについては、平成29年度の早期に仕組みを構築し、将来の夢に果敢に挑戦する挑戦者を、積極的に支援してまいりたいと考えています。

今後も加速する少子高齢化と過疎化に対処するため、安心安全な住よいまちづくりの実現に向け、人とひととが支え合うシステムの構築やコミュニティづくりを、「協働」という大きなテーマの中で実践することが重要であると考えます。

本予算が町の将来に繋がり、明るい未来を創造することができるものとなるよう強く願っています。

引き続き、「信頼と合意」「創造と改革」の基本理念のもと、「県内で一番住みやすいまち」「誰もが住んでみたいまち」の理想郷づくりの実現に向け取り組みます。

町民の皆様には、格段のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願いする所存であります。

以上が、平成29年度当初予算の概要ですが、議員各位におかれては、活発なるご議論をいただき、適切なるご議決を賜りますようよろしくお願い致しまして施政方針と致します。